

【政治学科 熊谷ゼミ紹介】

文責：政治学科 3年 進藤翔太

一、ご挨拶

こんにちは。本年度ゼミ長を務める進藤翔太です。2年生の皆さんは、ゼミ選びにソワソワされている時期でしょう。これより私が所属する「熊谷ゼミ」について紹介してまいります。あなたのゼミ選びの参考になれば幸いです。

二、熊谷ゼミ概要

- ・今年度は男性3名、女性5名の計8名で活動しています。他のゼミに比較すると小規模な為、先生と学生の距離も非常に近く、きめ細やかな指導が望めます。
- ・主な活動として3年次は文献購読と考察、4年次は卒業論文の執筆に各自励みます（*4年次は全体でのゼミ活動はありません）。
- ・夏期休暇には合宿を行います。



三、普段の活動について

学期中、熊谷ゼミは週に1回90分の活動があります。毎週この90分の活動時間には、当ゼミの代名詞とも言える「文献購読」が行われます。「文献購読」とは一週間に一冊のペースで課題図書（基本、先生が指定されます）を読み、論点を見出してその考察と議論を行うものです。「1週間に一冊とな?!」と恐れ慄かれるかもしれませんが、心配ご無用です。最初は読みやすい文献から読み進めていきます（今年は戯曲作品を扱いました）。「でも、どうせだんだんと難しくなっていくのでしょうか?」と思われるかもしれませんが、確かに、夏に向かうにつれて少しずつ文献は難解なものになってまいります。しかし、これが「苦痛」ではなくなっているのです。4月に始めた頃にはとても難しかった読解・考察・議論という学習スタイルが、ごく自然とあなたの身についていることが7月には実感できるはずです。

熊谷ゼミで学ぶ90分間は、あなたの学生生活において最高濃度の「学びの時」となることでしょう。

四、夏期休暇の活動

今年の夏休みは、山梨県の山中湖で一泊二日の合宿を行いました。日中はグループ対抗でのビブリオバトルを行いました。「ビブリオバトル」とは、参加者が読んで面白いと思った本を持ち寄ってその紹介をし、どの本を最も読んでみたいと思ったかを最後に投票で決定するというものです。今回は、各グループが「出版社の編集者」という設定の下、編集会議で採用されるためにいかに説得力を持ってその本の魅力をほかのグループ・先生に伝えられるかを競い合いました。白熱する議論を楽しんだ後は、美味しい夕食をいただき、花火大会・温泉・宴会を楽しみました。

合宿の日程・形態は学生の希望にそって実施される為、部活動などで忙しい人でも安心して参加ができます。

五、熊谷ゼミの醍醐味

先述のとおり当ゼミでは毎週、文献を読み考察・議論を繰り返します。毎回同じことの繰り返しでは単調なゼミと思われるかも知れません。しかし、同じことを繰り返すことによって、文献の読み解き方や考察の仕方のコツ、新たな知見が少しずつ身についてくるのです。この成果は大学生活における大きな糧となることでしょう。また、幅広い思想・文献に触れることで新たな興味があなたの中に生まれるかもしれません。

“幅広い文献に触れ、読解・考察力を養い、新たな知見が生まれる”このことが当ゼミの醍醐味と言えるでしょう。



六、終りに

ゼミ員の多くが部活やサークル・アルバイト・趣味と両立しながらゼミに参加しています。よって、熊谷ゼミに入ったら今の楽しい生活とおさらば…。なんてことは心配ありません。

読書好き、議論好きの方、これから本を沢山読みたいと考えている方、最後の2年間は本腰を据えて勉強してみようと考えている方(笑)、ゼミ員一同お待ちしております！

課題文献リスト

○春学期

- 三島由紀夫「わが友ヒットラー」(『サド侯爵夫人・わが友ヒットラー』新潮文庫)
カミュ『カリギュラ』(ハヤカワ演劇文庫)
ブレヒト『ガリレイの生涯』(岩波文庫)
三島由紀夫「鹿鳴館」(『鹿鳴館』新潮文庫)
モリエール『人間嫌い』(新潮文庫)
ラシーヌ「ブリタニキユス」(『ラシーヌ戯曲全集Ⅱ』)
シェイクスピア「コリオレイナス」(『シェイクスピア全集 14』ちくま文庫)
シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」(『シェイクスピア全集 25』ちくま文庫)
ゲーテ「エグモント」(『ゲーテ全集 4 巻』)
ソフォクレス『オイディプス王』(岩波文庫)
ソフォクレス『アンティゴネー』(岩波文庫)
ブレヒト『アンティゴネ』(光文社古典新訳文庫)

○秋学期

- モーパッサン『脂肪のかたまり』(岩波文庫)
ユルスナール『ハドリアヌス帝の回想』(白水社)
マルクス・アウレリウス『自省録』(岩波文庫)
プラトン『政治家』(『プラトン全集』所収)